平成 30 年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
東水沢保育園

Ⅰ．保育目標

●健康で明るい子ども
●豊かな心を持つ子ども
●自分のことは自分でできる子ども
●他人のことを考え、協力できる子ども
●何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
●自然に親しみ、愛することができる子ども
●人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども

Ⅱ．施設運営の重点課題

●保育内容の充実　●風の子農園運営　●子育て支援活動の推進と地域福祉の向上
●食育指導の充実　●職員の資質向上　●障がい児保育の充実と実践研究活動の促進
●地域との積極的な交流

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

Ⅲ．評価項目と取り組み状況

自己評価項目			評価	取り組み状況
1	保育内容の充実	・乳幼児の健全な発達をめざし保育内容の充実をはかる。 ・養護と教育が一体となり展開されるよう進める。	B	・年齢発達に応じた指導計画を立案し保育の提供を行い、反省をもとに次に繋げた。 ・一人ひとりの発達、家庭環境を捉え職員の共通理解をはかり保育を行った。 ・言葉かけ、環境等に注意し子どもの興味、関心を引き出すような取組みを心がけた。
2	風の子農園運営	・畑活動を通して生き物の共存、収穫の喜び、食することへの楽しみ等、幼児期の教育に重要な活動とする。	B	・畑を通して成長の様子、色、数、虫など様々な事への気づきにつながっている。 ・新しい農園での畑活動を楽しみ、クラスごとのクッキング、全体での収穫祭を行い食育へとつなげた。
3	地域との積極的な交流	・新しい地域の方々をお呼びし、保育園を知っていただき交流を図る。地域の行事へも参加する。	B	・園の行事には沢山の方においでいただき園児と一緒に楽しんでいただいた。園児も地区の夏祭りや敬老会へ参加し、太鼓、踊り、歌等を披露し喜ばれた。

4	子育て支援活動の推進と地域福祉の向上	・延長保育、障がい児保育など保護者のニーズにこたえる。 ・地域における子育て支援の充実・推進に努める。	A	・延長保育は午後８時まで行っており保護者のニーズに応えている。 ・子育て支援として地域に出向いていくことで（訪問保育）地域の方々との交流も出来ている。様々な活動を取り入れ子どもの発達を促し、子育て力を育てることに繋がった。食改善、市の栄養士による調理講座、母親が講師となる活動も行った。
5	食育指導の充実	・食を通して家庭、地域社会との関わりを深め、子どもの心と身体の育成を促す。 ・風の子農園の野菜を生かし料理を作る等保育との連動を持つ。	A	・保育参加日では親も一緒に子どもと食事をする機会とし、子どもの姿や調理方法を知ってもらった。 ・文化祭では給食コーナーを設け、試食や園児の給食を年齢ごとに展示し、保護者、地域の方々に食育を知らせることができた。地域の食材を使って東水沢保育園オリジナルの「がんずき」を作った。
6	職員の資質向上	・各種研修会に参加し保育力を高める ・「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」を進める。	B	・４園共通として「子どもの発達と身体リズム運動遊び」として取り組んだ。宮城学院女子大学教授、磯部裕子先生の講演を 2 回受け子どもの心の読み取り、エピソード記述について学んだ。 ・４園の５歳児がリズム運動交流会を行い指導の方法や新しいリズムを知る機会となった。 ・一人一研究の取り組み方を検討中である。
7	障がい児保育の充実と実践研究活動の促進	・発達程度に応じた保育ができるよう家庭、医師、専門機関と連携を持ちながら障がい児保育の充実をはかる。	B	・障がい児が通っている医療機関、保護者と話し合いを持ち、より良い支援を行うことに努めた。気になる子が各クラスにいるので、研修への参加や保護者との面談を行い、奥州市の発達支援センターや関係機関へつなげ、支援の指導を受けた。